



# 12 鷲峰山



鷲峰山(標高6822)は、地元では「じゅふせん」「じゅうぶせん」とも呼ばれているようである。宇治茶の産地として名高い宇治田原町と和束町にまたがる。南山城地域の最高峰の山でもある。

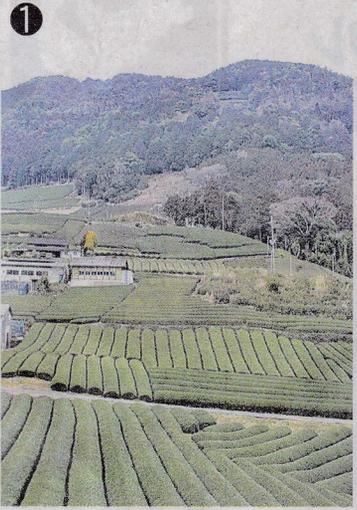
歴史は古く、7世紀後半に役行者によって開山さ

れ、山岳信仰の場として、大和の大峰山に対し「北大峰」と呼ばれるほど栄えた。山頂部は「空鉢峰」と呼ばれ、金胎寺、多宝塔、宝篋印塔など、一部が重要文化財として残り、往時をしのばせる。

登山道は宇治田原町、和束町の双方からいくつかあるが、今回は山頂部のある和束町側からのルートを案内する。

登山口となる奈良交通バス原山バス停で下車。「鷲峰山参道」と書かれた大きな石碑を見て原山集落を抜ける。集落を過ぎ広大な茶畑の中を歩く。写真①。茶畑を抜けると杉とヒノキの植林帯の急坂に息が切れる

## 大峰山と並び栄えた信仰の山



① 空鉢峰は山門を出て10分(6822)からの眺望は、板もあ

が、ゆっくりと登ろう。地蔵を祭った休憩所を見ると傾斜は緩やかになり、ちょうど二休みにいい場所だ。

ここからは山腹を巻く杉林の中を進み、途中にいくつかベンチも置かれてゆったりとした東海自然歩道を進む。やがて道は右手から来る谷筋で方向を変えて、水音を聞きながら登りとなる。水が切れると最後は何度かのつづら折りを上り詰め、金胎寺の広い参道と出合う。すぐに山門が現れ本堂が見える。

空鉢峰に向かう前に寺務所に寄って休憩しよう。原山バス停からここまで約1時間40分である。

空鉢峰は山門を出て10分(6822)からの眺望は、板もあ



②

次に三角点へ向かおう。ここから400ほど北へ山道を進むと、左から林道鷲峰山線に出る。この林道をしばらく歩くと左手に無線中継所があり、その取り付け道を上る。そこから東へ200ほどで一等三角点681に着く。その横に京都府内に2カ所しかない「天則点」がある。写真③。天文測量で経度や緯度など位置情報を求めた場所だ。1884(明治17)年に設置された府内には7山しかない一等三角点と

樹木に覆われ期待できないが、立派な宝篋印塔の存在感は圧倒的である。写真②。

下山は登ってきたルートをそのまま使おう。時間に余裕があれば行場巡りを勧める。岩場歩きの経験ある人との同行が望ましい。案内図に従い、東の覗、西の覗、胎内潜、千手の滝、五光の滝、護摩堂、鐘掛、平等岩などの岩壁を経て行場の辻へ戻る。約2時間の行程である。



③

歩行距離約9・3キロ、歩行時間約5時間。行場巡りをする場合はその時間も見ておこう。(日本山岳会京都・滋賀支部 土井文雄)

「京都の山々」はおわり。4月からは「京都から行ける近江の山々」を月1回、連載する予定です。

下山は登ってきたルートをそのまま使おう。時間に余裕があれば行場巡りを勧める。岩場歩きの経験ある人との同行が望ましい。案内図に従い、東の覗、西の覗、胎内潜、千手の滝、五光の滝、護摩堂、鐘掛、平等岩などの岩壁を経て行場の辻へ戻る。約2時間の行程である。

アクセス JR関西線加茂駅から奈良交通バス和束町小杉行きで、原山

で下車。またはマイカー利用。原山集落には駐車場あり。